

本店 電話二四八番
支店 電話三六六番

九
三
日
無
商
店

河南
松陽
七五
八五
七五
八五

仁興延龍	同海日宮	一、七、
一、七、	一、七、	一、七、
一、七、	一、七、	一、七、
一、七、	一、七、	一、七、

●典膳課長の運動

宮内府典膳長安淳煥は經理院
とて通般來屢々李總理大臣を訪
りて京城通信は傳へり

の爲め京城に會議を開く筈なる

列席するものは平壤、京城、金州、元山の各本店支配人と元本店に支店たる海州、晋州、鏡城及重なる。

●東拓総裁「東京市
字佐川東拓總裁は東京に於て開

● 回株主總會の爲め、嶺秘書役を隨
三日頃上京の筈にて尙重役中の
行すべしと

高等官一同は昨二十一日午後六

樓にて懇親の宴を開きたるが却りしと

●内部大臣の招宣

既報の如く林内部大臣は一月十日

任披露の宴を備したるが大臣の

の答辭演説ありて宴に移り主客
散會したるは十一時にして頗る

と雖も、檣して賭地法と打作法の
て小作料は専ら物納なるが金納

人の希望又は地主の都合に依り
のにして物納には概一石の代り
を納めしむるとあり又金納の場
所を納めしむるとあり

●賭地法 ●
は地味の疾速を見て

を附し各等に就き一定の小作料
は一反歩の小作料一等地は一石
等地は一石二斗三等地は一石五

▲打作法 は専ら收量折半法に

す此の場合には地租は地主の負
以最初の年に限り全部地主より
し次年よりは其の收量の内より

榮山浦昨今の状況

日に月に邦人の増加し何れも商
 従事し居れるが農場の如きは各

叔五勳等賜八卦章

公人私人

升金太郎(富山縣事務官) 新鶴州地

田喜調(同縣漁業組合理事) 同上
田喜三郎(歩兵第四十聯隊第十中隊長)

上山人不知火旗館
上山人不知火旗館
上山人不知火旗館

升謙介(滿鐵社員) 來京中の處二十日
川に向ふ

近事片々

氏 問題は廿世紀の大勢也殖民政策の侵略主義に非ず全く自衛上の政策

歳々増加する人々を其儘にし置
 らば倒るの恰當の殖民地創設は眞に急務
 日本^の如き領土狭くして人口増

本邦人の殖民地として韓國の適當な

干島は土地の割合に人口少し之には相近の利益需要供給の關係に合

に多數の移民を入るゝに反對の
ありと聞くのは全く非愛國の所爲な
會社は輿論に顧みて縣廳士明瞭

を改めたりと果して事實ならば甚好
 論は多くの場合に於て嚴正なる批
 人良相は自來之に取對するからば不

重役たるものの今の場合決して我々の所爲をなすべからず反省肝要なるの所爲をなすべからず反省肝要

所に依れば東拓は追々社内の革
新して事務の敏捷を計るとは實なる
事ならずば矢張り輿論に顧みたるな

灰の儘にては到底事故は事らざるべ
 任者を淘汰して速材を適所に置
 けりや幹事の人物に同太と別行す

府の官制改正所謂縮少説は唯論
して何等の實現なし亦も此儘御流れ

史陶汰説も矢張り同様何事も斯く決
は何故なりや官紀の振はざる廻りわ
政治の振はざるは適材の少きも

因也今に於て情氣の一番は最も必要
を在焉此儘經過するに於ては如

人官吏等にして日人官吏の無能を
 看さへわくと聞く甚だ無禮極る事な

とは云ひながら事實日人官吏に
程の無能者ありとせば甚だ慨歎
日人官吏の意氣地なきこと甚だ

説あるが斯くては指導も啓蒙もダメ
事件の連累政友會代議士に續々

相が動くや否や、精た司直の當事

